

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2019年5月10日 (金)

NO. 959号

本号3頁

衆院憲法審査会 国民投票法を巡り民放連の参考人質疑 民放連「CM規制強化に反対」

衆院憲法審査会は9日午前、憲法改正の是非を問う国民投票時のCM規制について、参考人招致した民放連幹部から意見聴取しました。

前日の8日、与党は衆院憲法審査会の幹事懇談会で9日の憲法審査会で、前回決まった日本民間放送連盟（民放連）幹部の参考人質疑の後に、継続審議になっている国民投票法改正案について質疑、採決を行うことを提案しました。野党側が難色を示して折り合わず、16日以降に持ち越される見通しとなりました。改正案は駅や商業施設での「共通投票所」設置などを盛り込んだ案です。

このような経過で開催された衆院憲法審査会は9日、「日本国憲法及び日本国憲法に密接に関連する基本法制に関する件（憲法改正国民投票に係る有料広告の自主規制の検討状況について）」とのテーマで、民放連の専務理事永原伸氏と番組・著作権部長田嶋炎氏の出席のもと、午前9時から始まりました。冒頭、永原氏が昨年の理事会で決定した「憲法改正国民投票運動の法相対応に関する基本姿勢」等を示し、表現の自由に抵触する恐れから、CM量の自主規制はできない、自主規制は行わない」との立場を明確にし、法的規制にも反対を表明しました。同時に「広告にフェイク（虚偽）があってはならない」として、内容の精査で対応すると理解を求めました。

これを踏まえて、はじめに審査会を代表して山花野党筆頭幹事が質問、その後10の党・会派の委員が10分ずつ質疑を行い、11時15分に閉会しました。

その質疑の中で、有料広告の自主規制問題について日本共産党の赤嶺委員が「有料広告は、資金力があるものが有利になるのではないかと、大阪での大阪都構想についての府民投票の際に、資金力のある賛成側が18種480本のテレビCMを出したのに対して、資金力が劣る反対側が1種120本と4分の1だったことを示して問いました。それに対して、民放連の田嶋氏らは「特定の広告主によって買いしめられたり、占領されることは私たちの感覚では考えられない」旨の回答を行いました。しかし、国民投票日の14日前までは広告の規制はなく、量の規制を行わなければ、間違いなく大阪のようにお金を持っている方のCMだけが放送され、情報量に格差が生まれてしまいます。今回の質疑であらためて、この問題を始め多数の問題のある、欠陥だらけの国民投票法であることが改めて明確になりました。



さらに、テレビやラジオだけでなく、インターネットの問題もとりあげられ、「SNS業者等を参考人に呼んでほしい」等の意見が社民党の照屋委員等から出されました。また、立憲民主の枝野委員は同法の制定時は民放連から放送局側によるCMの自主規制が前提だったとして「現行法は欠陥法だ」と指摘し、法制定時に関わっていてご自身（枝野氏）と自民党の船田委員の参考人質疑を要請しました。

基本的には、国民投票法の改正案の審議や採決を急ぐ必要はなく審査会を開催すべきではありません。開催するのであれば、簡単に審議・採決せず、必要な参考人質疑を行い、十分な検討・協議を行うべきです。

維新の会「ワイルドな憲法審査を行ってほしい」と発言

各党の発言の中で、共産党の赤嶺委員が発言の冒頭に「国民は改憲を望んでいません。憲法審査会を開催するべきではありません」と述べたのに対して、維新の会の馬場委員は、「自民は『ワイルドな憲法審査を行う』と言っていたが、お言葉通りやっていたきたい」と、とんでもない発言。維新の会の安倍政権の下で果たす役割が明確になった場面でした。

共謀罪・秘密法廃止に！

共謀罪法と秘密保護法の廃止を求める国会前行動

共謀罪NO！実行委員会と、「秘密保護法」廃止へ！実行委員会主催の「共謀罪法と秘密保護法の廃止を求める行動」が7日、衆院第2議員会館前で行われ、約40人の参加者が「市民監視の法律いらない」「知る権利を侵害するな」と声をあげました。

はじめに、駆けつけた社民党の福島瑞穂参院議員、日本共産党の仁比聡平参院議員、立憲民主党の逢坂誠二参院議員があいさつ。逢坂議員は、「統一選やゴールデンウィークで地元を歩いて感じるのは、国民生活がどんどん厳しいところに追い込まれているということ。アベノミクスがもたらしたのは大企業の膨大な内部留保の積み上げだけ。10月に消費税増税できる状況にはまったくない」と批判。その上で「民主主義でもっとも大事なものは情報。主権者である国民の皆さんが判断するために、自由に手にすることができなければならない。この根底を崩したのが特定秘密保護法だ」と秘密保護法と共謀罪法の廃止を呼びかけ、「そのために夏の参院選で団結して、安倍内閣に鉄槌をくだそう」と訴えました。



その後、両実行委員会の事務局で日本出版労働組合連合会の前田能成さんは「個人情報について国や行政が監視しようとしている実態を見極めるために、世界の経済や貿易の陰でどんな情報操作が行われているかなど皆さんと一緒に考えていきたい」と話しました。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」の高田健共同代表は安倍晋三首相による改憲発議について「国会や国会外でのたたかいによって6月末までの通常国会で改憲発議するのは“至難の業”というところまで追い込んでいる。参議院選挙で勝ち市民と野党の共闘の信頼関係をしっかりとつくる必要がある」と強調しました。

その後、市民団体の代表らがスピーチ。憲法会議の高橋は、5月3日の憲法記念日に触れて、「1945年8月に侵略戦争が終わった時の『戦争だけはいやだ』という国民の思いを集めた憲法9条は、今も変わらず、国民の希望であり、世界の宝です」と述べ、安倍政権の天皇交替を政治利用して改憲論議を進めようとする動きを批判し、「憲法を守り・いかそう」と訴えました。さらに、東京都町田市から参加した男性（84）は「陸軍の参謀本部にいた父親は東京大空襲の悲惨さを受けて死を覚悟して戦争をやめろと訴え軍法会議にかけられた。敵対して一方の考えを抑えるのはよくない。個人の人権と尊厳を守りながら平和を守りたい」と訴えました。

続いて行われた院内集会では、専修大学の山田健太教授が、「衆議院情報監視審査会『平成30年度 年次報告書』を読みとく」と題して講演を行いました。

「退位礼正殿の儀」安倍首相 とんでもない発言

4月30日に行われた「退位礼正殿の儀（そくいれいせいでのぎ）」での国民代表の辞を述べた安倍首相のとんでもない発言に右翼の方が怒っています。「末永くお健やかであらせられますことを願って“い”ません」と、安倍首相が「国民代表の辞」として挨拶した際、「已（やみ）ません」を「己（い）ません」と誤読したのです。

これに、日刊ゲンダイの報道によりますと、右翼団体「一水会」が激怒しているとのこと。安倍首相の発言を受け、一水会は公式ツイッターに「安倍総理が、4月30日の天皇陛下の退位礼正殿の儀で「天皇皇后両陛下には末永くお健やかであらせられます事を願って已みません・・あらせられます事を願って（已）いません」とやってしまった。これでは意味が逆。問題は、官邸HPから映像削除したこと。潔く字を間違えたこと認め不見識を謝罪せよ」と投稿したとのこと。

同紙によると、ネット上でも「字が読めないという事より、こんな人生最大の舞台で、普通の神経なら読み合わせ位はしてくるだろう。彼等の天皇を利用できれば良いという姿勢が現れている」「極めて

厳粛な場で、自身で原稿を作成せず、読む練習すらしていない」とケチンケチンだとのこと。そして、安倍首相は過去にも「云々」を「でんでん」、「背後」を「せご」などと誤読しているが、「今回ばかりはシャレにならない」と批判しています。

憲法共同センター9の日宣伝行動「安倍9条改憲許すな！」

憲法共同センターは、憲法審査会が開かれた9日、全国各地でいっせいに3000万人署名の署名・宣伝行動にとりくみました。都内では9ヵ所できりくまれ、憲法会議は茗荷谷駅前で新婦人の会、農民連とともに強い風の中3000万署名宣伝行動にとりくむとともに、新宿駅西口の宣伝行動にも参加し、同様に3000万人署名・宣伝活動にも参加しました。

新宿駅西口署名・宣伝行動には23人が参加。「兵器の爆買いやめて、くらしを守ろう」と訴えるピラを折り込んだテッシュを配布し、「戦争イヤ、イイネ9条」と書かれた大きな横断幕を持って、3000万人署名への協力を呼びかけました。さらに、宣伝カーから上から、全商連今井さん、全労連小田川さん、憲法会議高橋、生協労連柳さん、全労連長尾さん、民青同盟鈴木さんが訴えました。



小田川氏は「誰も戦争で殺させない、死なせないためには、自衛隊の戦争参加の最後の歯止めとなっている憲法9条を守り抜く以外にない。参院選で安倍9条改憲反対の審判をくだそう」と訴えました。憲法会議の高橋は、午前中の衆院憲法審査会の傍聴報告を含めて発言。憲法審査会での有料広告の自主規制問題について日本共産党の赤嶺委員の発言を紹介し、「欠陥だらけの国民投票法であることが改めて明らかになった」、「自民党は国民投票法の改正を呼び水に、憲法審査会を開催し、改憲案の提示を狙っている。ワイルドな憲法審査を許さず、安倍9条改憲を阻止するためにも憲法審査会を開くなの声を上げよう」と訴えました。

豊島区の介護福祉士の女性(44)は、「安倍首相は、憲法9条だけじゃなくいろいろな法律や制度を守っていない。軍事費とか『下関北九州道路』にお金を使うより、医療や介護など弱い立場の人のために使ってほしい」と話しました。

各地のとくくみ

福島・白河 「平和と憲法守ろう 愛する人を戦場に送らない」とパレード

福島県白河市で3日、「安倍9条改悪ノー」「安倍政治を許さない」と集会、パレードが行われ、38人が参加しました。憲法守る白河共同センターの主催です。

同市のJR白河駅前には、「平和と憲法守ろう 愛する人を戦場に送らない」と書かれた横断幕が広げられ、参加者は思いを書き込んだプラカードを突き上げました。

スピーチした男性は「安倍首相は、自治体に自衛官募集を強要するなど、すさまじい執念だ。天皇の代替わりや改元を利用した改憲策動も強めている」と指摘しました。そのうえで、「3000万人署名など憲法を守る世論を大きく広げ、参院選でも市民と野党の共闘を前進させて、安倍政権もろとも葬りさろう」と訴えました。

秋田 「第41回平和憲法をまもる秋田県民集会」400人が参加

秋田県では「第41回平和憲法をまもる秋田県民集会」が2日、秋田市の県児童会館で開催されました。主催は秋田県憲法センターで、約400人が参加しました。

法制学名誉教授の五十嵐仁氏が「9条改憲阻止のために」と題して講演。安倍首相が狙う改憲の本質が、日本国憲法のもとで守られてきた自由で民主的な平和国家の破壊であると強調。「9条改憲を阻止するためには、参院選での野党の本気の共闘がカギであり、活路だ。民が黙れば民主主義が滅ぶ。次の世代に引き継ぐためにも声を上げ続けることが重要。忘れず、諦めず、手をつなぎ市民と野党共闘を実現し、参院選勝利めざして共に頑張りましょう」と呼びかけました。

3日には、JR秋田駅前でも3000万人署名への協力を呼びかけ、平和憲法を守る大宣伝行動。対話した高校生らは「9条は平和を守るものだし、私たちのこれからもかかわる」と署名。70代の女性は「ウソつき、ごまかしの安倍首相に憲法は絶対変えさせない」と怒っていました。